

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101623		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント コミュニティ		
事業所名	水戸ケアセンターそよ風 湖畔		
所在地	茨城県水戸市見和1-298-9		
自己評価作成日	2022年6月1日	評価結果市町村受理日	2022年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870101623-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが「お客様と共に」安心して楽しい時間を共有できる生活の場の提供を目標にしている。
車椅子の方も日中歩行できるように介助するなど自立支援に力を入れている。
コロナ禍で外出や面会が制限される時もあるが、室内でのイベント、ドライブ、洗濯干しや日向ぼっこなどを実施し、室内にとじ込まないように対応している。
散髪やデリバリなど地域のお店と交流している。
昼食は2品よりセレクトを実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念である『しあわせ創造企業』を目指し、職員全員で利用者の気持ちに寄り添ったケアに努めている。自立支援の取り組みを職員全員で検討し、1つの試みとして車いす利用者も手引きでトイレ誘導している。食事は主菜を2種類から選ぶことができ、食の楽しみとして利用者にも好評である。コロナ禍の為、外出支援は控えているが、事業所内のイベントを重視した活動でストレスを分散させ、園庭散策や日光浴等で日差しを浴び、外気浴を楽しんでいる。家族には写真を添えて、日々の状況を伝えている。コロナ感染予防対策マニュアル作成・必要物品整備・ガウンテクニック・ゾーニング・シュミレーションは出来ている。*** 新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を事務所内に掲示。朝礼時に唱和し、常日頃より職員が意識できるようにしている。	会社の理念を事務所内に掲示し、朝礼時に唱和して確認をする。年間目標を作成しており、今年度は『お客様と職員と共に楽しく過ごします』とのこと。職員からは理念を唱和して再認識し、利用者の思いに沿ったケアと小さな変化への気づき・対応が出来るよう努めているとヒアリングで聞いた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で自治会の行事には参加していないが、近所の飲食店でデリバリーを頼んだり、美容師さんの訪問カットを実施し、交流を図っている。	自治会の行事はコロナ禍の為、中止になっている。飲食店のデリバリーを注文したり、月1回の美容師訪問でヘアカットをする。通りがかった地域住民と玄関先で挨拶を交わしている。施設の空き状況や介護・福祉に関する問い合わせがあり、アドバイスをしたり、関係機関に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々とのコミュニケーションを大切にし、お会いした際には笑顔であいさつを交わす事を重視し、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や市職員、地域住民、他事業所の方を構成員として3ヶ月に1回開催。状況報告、行事報告、取り組んでいる内容について報告し、意見をもらっている。	家族代表・地域住民・民生委員・他事業所職員・行政・事業所担当者の構成メンバーに3ヶ月ごとに開催。コロナ禍でしばらくの間、事前に議題についての意見を聞き、書面報告を行っていた。今年5月からは通常の対面会議を開催している。家族にはそよ風便りで報告し、職員には会議等で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員と、介護保険や生活保護に関する疑問など相談、助言をいただいている。運営推進会議にも参加いただいている。	担当課とは連絡を密にとり、良好な関係作りに努めている。生活保護受給の利用者がおり、社協との連携も出来ている。子供110番は検討中。小・中学校の町探検・体験学習の場として登録しているが、コロナ禍の為、要請はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、3ヶ月に1度、勉強会や疑問点を議題に開催して職員への共有認識を図っている。 身体拘束は行っていない。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、3ヶ月毎に全職員参加の勉強会・研修会を開催している。毎年、チェックシートで振り返り、評価・検討している。現在拘束はないが、必要書類等は整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し利用者に対して気遣いや配慮に欠けた言葉や接し方にならない様に意識して、職員同士が注意を払い予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については研修を実施。対応が必要と思われる利用者がある場合はアドバイスをしながら利用者の支援を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改正時には、不安が無くなるように丁寧な説明を行い同意を得ている。わからない点については、その都度対応、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、電話や面会時に職員へ直接話して下さる方が多い。要望があった時は職員全体で共有し、すぐに対応するようにしている。	意見箱の設置、苦情受付窓口・第三者機関名を明示しているがそちらからの意見は無い。1ヶ月毎に、そよ風便りと写真を添えて、利用者の状況を知らせしている。家族からの問い合わせは面会に対する内容が多い。職員の異動・担当変更はそよ風便りで伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、GH会議、ケアカンファレンスを毎月実施し、職員からの意見や提案を出来る場を作っている。必要に応じて個人面談をしている。	全体会議・GH会議・ケアカンファレンスを毎月実施し、活発な意見交換が行われている。施設長・管理者は、風通しが良く、話し合いができる職場、やりがいがある職場作りを努めている。必要に応じて個人面談を実施し、ストレスや不満をためないよう配慮している。施設長・管理者・職員の関係は良好で何でも話し合えるとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者、職員の勤務状況を把握し、個々にあった業務を分担し、やりがいがある職場環境を作っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修はトレーナーをつけ、疑問や不安を取り除けるように実施している。社内研修は個々の能力に合った研修に参加できるようにしている。社外研修は積極的に受講し職員に報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービスの問題点を会議や研修などで相談し、交流、連携を図っている。会社内のGHとの交流があり、サービスの向上に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学や実調において、不安や要望等を確認し、サービスを利用する上で利用者のご家族が安心できる様に配慮している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス前の段階で不安や要望等1つずつ確認して、ご家族に寄り添える関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要とされるサービスを見極め支援している。利用者のご家族の要望は取り入れ、本人に沿ったサービスに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の押し付けではなく、協働しながら生活できるような声掛けをすることで利用者の得意分野で活躍できるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調面や暮らしの様子を月報報告書や写真入りのそよ風だよりを作成し、また電話にて連絡しながら、情報を共有し一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に馴染みの人がいるか確認し、面会できるように対応している。また、馴染みの場所にドライブ外出している。	電話や手紙で馴染みの人と連絡を取り合っている。家族以外の訪問は家族に確認して対応している。慣れ親しんだ地域の名所へドライブすることもある。面会はベランダ越しや玄関先で、前日までの予約を基本とし、10分程度実施している。職員・利用者同士が良好な馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、利用者同士が良好に保てるよう注意深く見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族へその後の近況を電話で確認することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望の把握に、普段の会話や表情から読み取れる様に努めている。こんな方へは、昔の情報を元に対応している。	利用者からは食べ物や外出の要望が多い。家事(洗濯干し・たたみ・掃除・テーブル・お盆・食器拭き等)や趣味(塗り絵・カラオケ等)を通してやりがいに繋げている。困難な場合は表情や様子からくみ取り、利用者本位に検討して全職員で共有する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にこれまでの生活の経過をご家族に記入していただき今までの生活歴や暮らし方を把握し、その人らしく過ごせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握することで本人の現状を知ることに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から思いや意見を伺い、アセスメントを行い、職員の意見を入れて計画書を作成している。	計画作成者が家族・利用者から思いや意見を聞いてアセスメントを実施し、カンファレンスでニーズとケアのあり方について話し合い、プランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。前回の評価から日々の記録はプランに沿った内容をタブレットに入力している。モニタリングを実施し、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動等、個別に記録し、情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ地域の名所へ外出している。また、定期的な消防訓練を消防署の指導の下に年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のご家族の希望を必ず確認している。入居前からの病院を利用している方もいる。希望が無ければ協力病院の先生にお願いしている。	協力医療機関から月2回の往診と週1回の訪看が入り、健康管理に努めている。往診記録・個人ファイル(変化があった時は家族に連絡し記録)・申し送りノートに受診結果を残している。かかりつけ医受診は家族対応で、日ごろの状態を文書もしくは口頭で伝え、受診後は報告を受け記録に残している。救急搬送の場合は個人ファイルと受診ファイルを持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ24時間相談することが出来るので、的確な指示をもらい対応することができる。日中は、事業所内にデイサービスがあるので、看護師に相談することが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には、診療情報提供書を記入していただき情報を共有している。入院時はソーシャルワーカーや担当看護師と電話連絡を取り、情報交換を行っている。希望病院へ受診する際は、お手紙を作成し、担当医師との情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にそよ風の重度化・看取りの方針を説明している。必要があれば、主治医や家族、職員を含め話し合い支援していく。	重度化対応・看取り対応に関する医療連携体制に関する指針を作成し、看取りは行っていないことを契約時に説明し同意を得ている。協力医院・訪看は24時間連携が可能。看取りに向けた取り組みの勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに基づき行動が取れる様に話し合うとともに、具体的な対応が出来るよう定期的な研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合避難訓練は消防署立会いの上で訓練し、近隣の事業所と連携、協力の下で実施している。年1回の夜間想定避難訓練も実施していて、災害用食糧及び水の備蓄もある。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員は身に付けている。災害別マニュアルは作成済み。隣接する2つの事業所への協力依頼内容は構築済み。非常用備蓄品・水・緊急持ち出し用品は整備している。広域避難場所は周知している。福祉避難場所は行政に確認する予定。	施設長・管理者は利用者の避難確認方法を理解しているが、職員と、再度、確認し、全職員への周知を図ることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを大切にして個人ファイル等は事務所に施錠して保管している。一人ひとりに個別に伝わりやすいように声掛けをしている。肖像権については契約時に同意をもらっている。	書類関係は事務所内の施錠できる場所に保管している。肖像権を含め、情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。トイレ誘導・声掛けはプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が欲しい物、必要な物を伺い職員が購入している。デリバリーの際はメニューを見ていただきご自分で選んでいただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、わかりやすい言葉かけ、個人の希望を引き出せるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや髪を溶かすことができる方には促し、出来ない方には声掛けし、希望を伺い対応している。洋服を選んで頂いたり、化粧をしている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の茶碗とお箸を使用し食事を楽しんでもらっている。テーブルや食器拭き等も職員と一緒にやっている。	平日は栄養士が立てた献立を厨房で作り、ごはんは事業所で炊く。休日・朝食は利用者と一緒に事業所で作る。マイ食器と箸を使い、2種類から選べる主食を楽しんでいる。利用者の状態に合わせた形態・代替えで提供。盛り付けや配下膳、お盆・テーブル・食器拭きは利用者も一緒に行く。職員は食事介助を行いながら、他の利用者の食欲や嚥下等に注意を払っている。月1回は料理をする機会が持てるよう、おやつ(ピザ・お好み焼き・たこ焼き・梅ジュース等)作りを楽しんでいる。誕生日は手作りケーキとプレゼントでお祝いをしている。毎食後、口腔ケアを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの摂れた献立を作成し調理している。利用者の状態に応じ代替えでの対応も行っている。水分量、食事量を記録して個々の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをつかみながら状況に合わせて声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	利用者個々のパターン・表情・仕草等から声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間おむつ対応の利用者も昼間は布パン＋パットやリハパンでトイレでの排泄に努めている。夜間帯はそれぞれに合わせた対応を実施している。便秘予防として食事量・水分量・乳製品・オリゴ糖・運動等を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を参考に、排泄パターンを見極め、食事量、水分量、乳製品、オリゴ糖、運動で便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調面を確認し、入浴できるように対応している。また、季節感を味わえるよう対応している。(菖蒲湯、ゆず湯など)	利用者の希望・体調に合わせ、週2～3回の入浴支援を実施している。浴槽が2つあるので、仲の良い方同士、一緒に入る時もある。季節のしょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤で気分転換を図っている。着替えの準備は出来るところまで自分でやってもらい、職員と一緒に確認をする。皮膚感染防止対策を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間の様子を確認しながら、体調や表情、希望などをとり、ゆっくり休める様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに保管している。変更時は申し送りノートに記入し、全職員が周知出来る様に徹底している。服薬の間違いが無いよう名前・数・日付・服用の確認をスタッフ2名で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、仕事、生活歴の情報を収集しながら、役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事をたて、毎月のイベントや企画を考えながら支援に努めている。	コロナ禍の為、外出支援は難しい状況であるが、県庁や千波湖等へのドライブ、ベランダでの洗濯干しを兼ねた日光浴、玄関先のコキアを眺めたり園庭散歩をする等、季節の移ろいを感じて工夫に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には一人ひとりの希望に応じてお金を所持して使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話で話せたり、手紙を送ることもできるよう支援している。携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる掲示物を利用者と一緒に作成したり、四季折々の行事を通して過ごしていただけるよう配慮している。	そよ風祭りで出展する為に利用者が作成した天井まである大きな木のオブジェに短冊を飾ったり、季節感のある展示物の作成に取り組むなど、見当識への配慮がある。現在、夏に向けて提灯を制作中との事。ソファでのんびり過ごしている利用者の姿があった。黒板にメニューを表示し、食べる楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にはベンチを置き、共有空間にはソファを置いている。好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や小物類を持ち込むことで心地よく快適に過ごせるように配慮している。	衣装ケース・チェスト・テレビ・テーブル・椅子等を安全面に配慮し設置している。カウンターには小物(ぬいぐるみ・目覚まし時計・家族の写真等)を飾り、落ち着ける居室となっている。大容量のクローゼットには衣類が収納されている。清掃は主に職員が行い、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活していただけるよう、建物内には手すりが設置してあり移動しやすくなっている。居室内にはクローゼットも設置してあり、衣類を分けて収納することが出来る。		

(別紙4(2))

事業所名 : 水戸ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成年月日 : 2022年8月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回避難訓練を実施しているが、避難確認方法が全職員に周知されていない。	ご利用者様の避難確認方法を全職員が把握し、安全な避難誘導を行えるようにする。	避難確認方法を「居室のドアを閉める」では分かりづらいという問題があったため、居室ドア脇に造花を飾り、避難終了した居室は「造花を床に置く」に変更し、簡単に確認できる様に変更し、全職員が周知出来る様にする。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。